

ひとを育てる活動

現地パートナーとともに支援するビラン、千ボリ、マノボ、ムスリム等、各民族の子どものページです

ー みんなで食べる昼ごはん・給食は「学びたい、学校に行きたい」を支えていますー



＜マグロ山腹にあるアトモロック校の給食タイム＞

当番の母親による具沢山スープの給仕(左)と、校庭での食事風景(右)。4年前、アトモロック校を訪ねた時も、子どもたちは、三々五々、木陰などでの昼食を楽しんでいました。

暗い教室より戸外の食事の方が楽しいのは確かですが、地面に直接食器を置くのは不衛生ではと、CMIP事務局に伝えると、現時点で下痢等の報告はないが、改めて、アトモロックの教師に、衛生面の配慮を十分にと伝えるということでした。



登校時に子どもたちが持参したカボチャ、ハヤテウリ、ヤングパパイア等の下ごしらえをする給食当番の母親たちと、給食タイム (いずれもラムアフス小学校)

CMIP カレッジ卒業生3名の近況から

昨年の4月号P2で、卒業式後の姿を紹介した3名について、近況報告が届きました。いずれも教育学部を修了し、辺境にあるCMIPの新設校ナブル・カマガヤとバンリで、奨学金返済に代わるボランティア勤務をしながら、3月の国家試験準備を進めていました。

但し、マリーグレースは、結婚・妊娠で11月にナブル校を退職、3月の受験もしませんでした。ジェラルディンは合格し、技術専門学校で専任として、アイリーンは不合格でしたが、公立ハイスクール非常勤講師として、この6月から教壇に立っています。

カレッジ4年間の奨学金と国家試験のために支援者から頂いた金額は約18万円です。長期の多大なご協力に改めて、後輩の育成に励んでほしいと思います。

給食の写真を送ってくれたCMIPのチャリスに聞きました。

***代表的メニューは？**

ご飯と魚の干物かイワシの缶詰、それに野菜スープが基本メニュー。ただし、ご飯はお米の寄付があった時だけ学校で炊く。通常は各自が持参するご飯の上に、野菜入りスープをかける。ご飯がなくても、カボチャやイモが入った具沢山スープでかなりお腹は満たされる。

***1人当たり1食分の予算は？**

今年度は、HANDSの年支援額11万ペソで、1.47ペソ約3.4円です。[4校の児童総数621名、年120回(週3回)実施]

***7, 8年ほど前には、1食5ペソの予算と聞いたが？**

辺地の新設校ナブルとバンリの児童数が年々増加し、アトモロック、ラムアフスを加えた4校の生徒数合計は2倍近くに増えている。一方で、HANDS支援金は減っているの、一食当たりの金額が少なくなっている。

私たちは、2007年度の33万円から、2016年度の25万円へと、給食費支援額を漸減してきました。会員減という事情のほか、現地の自助努力への期待もありました。

実際に、教師や助産師ジョジョさんによる家庭菜園キャンペーンが徐々に成果を上げていて、子どもたちが持参する野菜は、種類、量ともに増えているようです。

各学校では、割り当ての1食1.47ペソを主に油等調味料に充てて、週3回の具沢山スープ作りに挑戦しています。

SCMSI 校の里子近況報告

***SCMSI以外のシニアハイスクールへの転出事例増加**

新教育制度「Kto12」のもと、里子11人がジュニアハイスクール10年生を修了しました。うち、7人はSCMSI校シニア部門11年生に進級しましたが、前号で紹介のシャーキーを含む4人は、外部ハイスクールに転出しました。

SCMSIは、教師や施設不足などにより、シニアハイスクールにSTEMコースを開設していません。ハイスクール教師や会計士になるには、STEMのある外部のハイスクールに転出の必要があります。個々のケースについては、後ほど各里親の皆様にご連絡させていただきます。

*** SCMSIカレッジ卒業の3名の里子・短信**

教師国家試験受験を考えているシェルリン、レイクセブ町職員希望のセフリド、そしてジェイスン、いずれも目下就職活動中です。朗報をお伝えできればと思います。

6月から新学期が始まりました。「学びたい」子どもたちを応援するため、現給食支援額を維持したいと思います。ご高齢等による退会会員が増えるなか、新規の教育全体支援会員(月500円)を募集しています。